

社内ニュース TOPICS

高品位素材を追求——ソフト面もアプローチ

神鋼ファウドラは、創業以来、グラスライニング（GL）のトップメーカーとして多様化するユーザニーズに応える製品開発に積極的に取り組んできた。耐食性、耐衝撃性、耐摩耗性などの性能の向上を図ることで、ファインケミカルの発展を支えてきた。さらに多品種少量生産における生産の効率化を高めるため、自動化、多機能化を進め、FA化に対応したシステム開発やソフトからのアプローチも強力に推進する。

GL製機器は優れた耐食性から製品の品質管理のシビアな製造工程の心臓部に幅広く使われている。とくに化学、食品工業などでファイン化が進み、従来に増してGL製機器の持つ重要性が目ざされ始めている。

同社のGL製機器製品群には高品位生産を目的とした優れたガラス「グラスチール9000」が使用されている。これはGLの持つ優れた耐酸性を保ちながら、耐アルカリ性を従来に比べ2倍に向上させた。さらに内装品については、耐酸、耐アルカリとともに、耐衝撃性、耐摩耗性を加味したヌーセライト（結晶化ガラス）を採用している。また素材からの性能向上とともに自動化、省力化の研究にも力を入れている。FA化に合致したGL製センサー「メゾンデT」（温度計）、「メゾンデP」（警報器）、「メゾンデpH」（測定計）など自動化のためのセンサーを取り揃えている。そして一つの釜で多目的使用を可能とした、軸と翼が容易に脱着可能な「クライオロック・アジテーター」など機能を追求した豊富なアクセサリも揃えている。

さらに、急速に進むファイン化に対応するため、多機能反応装置の開発、FA化のためのプロセスコントロールシステムの開発など、ソフト面での技術確立でも同社は業界をリードしている。

そして子会社である神鋼ファウドラ・サービスが同社の製品の据え付け、アフターサービスなどを担当。常に最高の状態で使用できるように万全を期している。同社はフッ素樹脂ライニング、各種耐食金属も手掛けており、耐食総合メーカーとしてさらに発展を続けていくため、あらゆる要望に応える体制を整えている。

（'88.6.29 化学工業日報）

米アローヘッドと提携——極東で純水装置の製販権

神鋼ファウドラは25日、米国の純水装置メーカー、アローヘッド社（社長・L・Sスレーター氏、本社・イリノイ）との提携により、台湾、韓国など極東地区における同社の純水装置の製造・販売権を得たと発表した。

これはアローヘッド社が開発した純水装置の製造技術を神鋼ファウドラが譲与してもらい、日本や台湾、韓国などに向けて製造・販売するロイヤリティ&イニシャル契約。今回は低圧合成逆浸透膜を用いて超純水を製造する

「ダブルパスROシステム」と常温滅菌システム「トライゾーン」、ポリシング用イオン交換樹脂の有機物低減システム「オキシテック」の3機種 of 技術供与を受け、順次製造・出荷して行くものという。

アローヘッド社は、米国の超純水装置のトップメーカーで、これらの3機種も米国の電子・電機分野や原子力発電、半導体産業など幅広い用途において高い評価を獲得。神鋼ファウドラもこれらの実績に基づき、アローヘッド社と提携したもので、3機種で年間20—40システムの受注が見込めるとしている。（'88.8.26 日本工業新聞）

三星重工業（韓国）に技術供与——ABCシステム嫌気性廃水処理法

神鋼ファウドラは、このほど韓国の三星重工業との間で正式にABC（嫌気性廃水処理）システム技術供与協定書に調印し、技術者トレーニングも完了した。

同社のABCシステムは、従来の嫌気性処理の最も難題であった、バクテリアの高濃度維持を克服し、従来の3—4倍以上の処理能力を発揮する嫌気リアクターがノウハウとなっている。このほか同システムには①汚泥発生量が約4分の1以下になり、処分費が大幅に節減できる②発生するメタンガスを有効利用できる③消費電力費が30%以下に節約できる④メンテナンスが容易——など多くのメリットがあり、同システムの出現により、わが国内の微生物による廃水処理が好気性処理から嫌気性生物処理へと大きく変革している。

同システムは1982年7月販売開始以来、国内では長田産業をはじめ既に14カ所の実績を有し、リアクター容量は延べ9100 m³ に達している。

かねてより、三星重工業から同システムの技術供与申し入れがあり、検討中であったが、ソウルオリンピックを契機とした韓国では環境保全・整備事業の気運が高まってきていることから、同社ではハード対応よりソフト対応がベターと判断し技術供与に踏み切った。

三星重工業では、早々と第1号機として同じ三星グループの第一合繊向けにリアクター容量約1000 m³ の同システムを決定しており（我国内ベースで3億円相当）、引き続き引合も活発で神鋼ファウドラからの応援も求められている。

同社では、今後韓国においても順調な経緯を辿るものと期待するとともに、アジアNIES向けに同システムが広く採用されるものと期待して積極的に技術供与を展開する方針。

なお、ABCシステムに関する問い合わせは同社大阪支社水処理営業部（06-390-1355）あるいは、東京支社水処理営業部（03-459-5926）まで。

（'88.9.5 水道産業新聞）